

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 7月21日 更新

事務事業名		夏休みスペシャルおはなし会実施事業					☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会	課長名	上原 哲也
	施策	20	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	森田 由貴恵
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供					所属班	図書館班	(内線)	2512
予算科目		会計一般	款10	項5	目8	事業連番10805	法令根拠	成果優先度評価結果：⑥ コスト削減優先度評価結果：⑨			
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)			

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	市内の小中学生からボランティアを募り、図書館職員と一緒に小さい子どもたちへの読み聞かせを行う。夏休み期間中に実施。平成15年度より、図書館利用率の低い中学生を対象とした事業はなにか出来ないかと考え開始した。積極的にボランティアに参加希望する子どもは少ないものの、一度体験すると楽しかったという感想が多く聞かれた。徐々に夏休みのイベントとして認知度が上がってきている。
【業務の流れ】	市内の小中学生からボランティアを募り、図書館職員の担当を決める。小中学生に指導しながらおはなし会の会場準備・市民への周知をする。
【主な予算費目】	報酬、報償費、需用費（消耗品費）
【意見や要望】 関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	おはなしに語りとして参加した子も、観客として参加した方々も概ね、楽しかったとの意見だった。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO) 小学生ボランティア5名（中央小1名、南ヶ丘小1名、西合志東小3名）、西合志南中学校2年生図書委員ボランティア6名集まり、影絵・人形劇・大型絵本・手遊びなどを行った。		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 8月26日実施予定
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア 開催回数	回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
ボランティアについては市内の小学校上級生及び中学生おはなし会参加者は図書館利用の小学生以下の子ども及びその保護者	⇒ ア 市内小学生数	人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
小さな子どもたちへの読み聞かせを体験することにより、おはなし会の楽しさを実感し創造性を養う。	⇒ ア おはなし会ボランティア参加者数	人
	⇒ イ おはなし会に参加した人数	人
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠 H21年度の成果指数（実績）より、ボランティアの人数、おはなし会に参加した人数は適切であった。H22年度の目標指数値設定の根拠は、実績の規模が、ボランティア1人当たり15名の参加人数であったので、ボランティア人数を最大でも5人とし、おはなし会に参加した人数15人をボランティア人数に乘じた数を設定した。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 回	回	1	1	1	1	1	1	1	
② 対象指標	ア 人	人	3,538	3,582	3,600	3,700	3,700	3,800	5,000	
③ 成果指標	ア 人	人	5	4	5	11	5	5	5	
	イ 人	人	79	56	80	114	80	80	80	
投 入 費 用 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円			3	4	4	4	(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円		4	7	6	6	6	
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	0	4	10	10	10	10	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	4	4	4	3	4	4	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	20	110	20	80	20	0	0
	(B) 人件費計		千円	80	437	79	329	82	0	
			千円	80	441	89	339	92	10	

事務事業名	夏休みスペシャルおはなし会実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ボランティア募集および実施の広報の時期、手段が適切であったためか、目標以上のボランティア参加者と当日の参加者が集まり大成功であった。
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 小学5・6年生から中学生までボランティアを募集するが、読書に興味があり、意欲的におはなし会のボランティアとして応募する児童生徒がいるため。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある⇒【理由】 会場に限りがあるため、これ以上参加者を増員することはできないが、ボランティアに適切な指導を行い、中学校の司書と連携を密にすることで、より内容の深いおはなし会が実現できる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 今のところ他に中学生が主体となって実施する事業がないため、統廃合はできない
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 ボランティアの子どもたちにも薄謝を渡すだけなので、削減余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 必要最低限の時間で事業をしている。削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 公平・公正である⇒【理由】 図書館法により図書館で主催する事業は無料で行わなくてはならないため、公正である
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である⇒【理由】 地区単位、学校単位で児童・生徒による読み聞かせを行っているところはあるが、合志市内の全ての小（5.6年生）・中学生に参加する機会を提供できるのは公共図書館において他に無い。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

計画的に準備したことと、ボランティア参加してくれた児童・生徒が意欲的であった為、完成度の高いおはなし会を行うことが出来た。参加した児童から「わたしも、大きくなったらボランティアしたい」という声が聞かれ、参加者が次は演じ手へと世代交代していくことが期待される。子どもたちの熱意を無駄にしないためにも、職員の資質を向上し、継続して実施していきたい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

今後も同様に続けていく

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

参加する児童・生徒に合わせるため、練習、準備が図書館の繁忙期である夏休みにあたる。職員数の減少と、同時期に行われる「合志市童話発表大会」との調整で担当職員が十分に準備、練習が行えない状況にある。